



私のいちおし本 「同志少女よ、敵を撃て」

逢坂 冬馬 著



選者：文化センター 多田 愛美

これは、独ソ連戦が激しさを増していた、1942年のモスクワ郊外の農村に暮らす少女・セラフィマの物語です。

彼女の穏やかな暮らしは、急襲してきたドイツ軍に奪われ、セラフィマも窮地に陥りますが、命が危くなる寸前で、ソ連軍の女性兵士によって救い出されます。ところが、その女性兵士から「戦いたいか、死にたいか」と二択を迫られ、セラフィマは彼女が教官を務める訓練学校に入学し、一流の狙撃手として育成されることになります。

先の大戦で唯一、女性兵士が在籍していたソ連軍と、セラフィマの視点から描かれる「戦争」は、言葉では言い表せない程の衝撃がありました。2022年の本屋大賞受賞作品であり、ロシアによるウクライナ侵攻の際、世間から大きく注目された作品でもあります。気になった方は、ぜひ読んでみてください。

今月の新刊

【銀河アリーナ図書室】

【一般】

しろがねの葉

千早 茜 著

戦国末期、採掘最盛期を迎える石見銀山。天才山師・喜兵衛に拾われた少女ウメは、銀山の知識と鉱脈のありかを授けられ、女だてらに坑道で働き…渦巻く欲望と死に抗って生きる女の生涯を描く。



【文化センター図書室】

【一般】

間借り鮭まさよ

原 宏一 著

自分の店を持たず、間借り営業をするまさよ。ほっこり笑顔の一見普通のおばちゃんだが、鮭を握らせたなら超一流の腕前。そんなまさよのところには、相談や困りごとが舞い込んでくる。



【児童】

からだたんけんれっしゃ

濱田 真理文 著

食べものがどこに行くのか知りたくなった男の子。小さくなった男の子は、おもちゃの列車に乗ってからだの中へ…口に入れた食べものが最終的に便となって排泄されるまでの過程を楽しく学べる絵本。



【児童】

ぼくのとみたちは、あたまにはながさいている

ジャーヴィス 著

頭に花が咲いているデイビッドは、ふんわりしてて優しい。でも、ある日デイビッドの頭の花が散ってしまい…。共感すること、ともだちにやさしい気持ちで寄り添うことを、ちいさな子どもにもわかるように描いた絵本。



その他の新刊

【一般】あなたはここにいなくとも

町田 そのこ 著

しぐりをした人は、なぜ神社に行くと大成功するのか？

八木 龍平 著

【児童】ねこのおふろや

くさか みなこ 文

学校では教えてくれない生活保護

雨宮 処凛 著

その他の新刊

【一般】お墓、どうしてます？ キミコの巣ごもりぐるぐる日記

北大路 公子 著

継ぐ者

上田 秀人 著

【児童】真鍋先生の恐竜教室 きみも恐竜博士だ！

真鍋 真 著

あずきの絆 ほくが図書室で出会った妖怪

高森 美由紀 作